

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、言葉のリズム、音の重なり、強弱や速度について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせ理解するとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、声を合わせて歌ったり、思いに合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の重なりや言葉のリズムの重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や言葉の特徴にふさわしい表現を工夫したり、どのように演奏したり全体のまとまりを意識した音楽をつくったりするかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 輪唱やリズムアンサンブルづくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070101_001

【教材名】バナハ（歌唱） 音楽をもとにリズムで遊ぼう！（音楽づくり）（P.6～P.7）

【準備等】リコーダー、木琴、ウッドブロック、カスタネット、トライアングルなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「バナハ」を歌うことを通して、歌い方の技術を身に付ける。</p> <p>★歌声とリズムのトレーニングをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「バナハ」の範唱を聴き、大まかに曲の感じを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴や構成について気付いた点を話し合う。 ○斉唱で旋律を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「バナハ」を「ラ」「ル」「ナ」「パ」などで歌ったり、歌詞で歌ったりする。 ○カノン（輪唱）で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・初めは2声で、慣れてきたら3声で輪唱する。 ○工夫して輪唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫を加えて輪唱する。 ・リズムを加える ・少人数で歌う ・違うパートの人同士が隣り合うようにする <p>2 言葉を使ったリズム アンサンブルをつくる活動を通して、音楽の仕組みの生かし方や、それらの面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマから言葉を探し、リズム表現をする。 <p>○選んだ言葉のリズムを繰り返して重ねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能向上を図るため、随時活動に取り入れる ・輪唱（カノン）は、重なり合うパート相互の響きをよく聴くことが重要である。少ない声部（2声）で歌うことも、お互いの声をよく聴くために有効である。 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。 ・フレーズのまとまりを意識し、リズムの反復や変化に気を付けて歌わせる。 ・歌詞を「ラ」「ル」「ナ」「パ」にすることで、音の調和・協和（ハモリ）をよりはっきり聴くことができる。また、のどを開く母音（a, o）、唇を使う子音（m, n, p）など、組み合わせによって課題に応じた発声の練習に展開することができる。 ・「ラ」「ル」「ナ」「パ」で歌うときは舌や唇をよく動かすようにして発声させる。 ・歌詞で歌わせるときは、日本語と異なる響きの面白さを生かして歌わせる。 【評】呼吸や発音の仕方に気を付けて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・ある程度安定した声で歌えるようになったらより声の響きを注意して聴くようにさせるために、伴奏なし（アカペラ）で歌わせてもよい。 【共通事項】音の重なり 【評】輪唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・リズムを加えるときは、教科書の楽譜を例に手拍子に足拍子を加えたり、それを打楽器にしたり、新たなリズムを加えたりして発展させることができる。 ・ハ長調で歌えるようになったら、更に移調して（キーを上下させて）歌わせ、声域を広げさせるとよい。 【評】旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・楽譜に書かれたものに留まらず、子どもの発想によって様々な表現を工夫していくことで多様な学習へと展開することができる。 ・子どもの生活にある身近なテーマ（食べ物・行事・季節など）を選ぶことによって、様々な言葉のリズムを探すことが容易になる。 ・複数のリズムが考えられる言葉は、あらかじめ確認して合わせるようにする。（例：じゅうどう＝??または♪♪♪♪） ・反復の回数は2回以上でもよいし、回数をあ

・始めや終わり，休符や反復回数など，全体のまとまりを考えて工夫する。

- 作ったリズム・アンサンブルを工夫して演奏する。
 - ・速度や強弱を変化させて，曲想を工夫する。

- 言葉のリズムを，体の音で表現する。
 - ・体の部分や鳴らす方法により音色や強弱は変わるので曲に応じてそれぞれ音を探す。

- 言葉のイメージやリズムの特徴に応じた，楽器・奏法を選んで演奏する。

- 動きを加えたり，木琴やリコーダーの5音階で表現したりして，演奏を発展させる。

らかじめ決めずに指揮者の合図で即興的に変化させてもよい。

【共通事項】リズム 音の重なり 反復
【評】言葉のリズム，音の重なり，強弱・速度とそれらのよさや面白さを関わらせながら音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する

【評】思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

- ・テーマや言葉のリズムとイメージから，重ね方，音色や音の高さ，アーティキュレーションを変化させてもよい。

【資料】アーティキュレーション…音の形を整え，音と音のつながりに様々な強弱や表情をつけること

【共通事項】変化 速度 強弱

【評】リズムの重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・体の音は，様々な体の部分を鳴らしたり，鳴らし方を変えたりして試し，言葉のイメージやリズムに合ったものを探させる。
- ・打つだけでなく，こすったりはじいたりすれば，手だけでも何十種類もの音を出すことができることを伝える。

【共通事項】音色

【評】リズム・アンサンブルの音色や強弱を様々な試す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】